

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 125 号
2023年 7月



第 188 回観察会 母成峠新緑のブナ林

6月4日(日)に第188回高山の原生林を守る会の自然観察会を開催しました。参加者は16名でした

今回は母成峠から船明神山麓に広がるブナ林までの自然林を散策しました。前日までの天候とは一転して夏の日差しを思わせる朝でした。出発地の母成峠駐車場は強めの風が吹いていて肌寒いくらいでしたがミズナラ林に入ると風は涼風になりました。ミズナラ林では、木々からの木漏れ日を浴びながら、ミヤマイクビチョッキリやオトシブミの揺籃など多くの森の生物たちの営みが見られました。また、このミズナラ林にはシナノキやダケカンバの高木が多く植生していて、その個性的な樹姿も楽しみました。下見の時には咲いていなかったコミネカエデやサラサドウダン、ベニサラサドウダン、オオバスノキ等の花々も見られました。

ブナ林では、幹事の渡邊アヤ子さんのオカリナ演奏を鑑賞しました。ブナ林に心地よいオカリナの響きが流れ、癒しの時間でした。不思議なことに木々を揺らしていた風が演奏中はぴたりとやみ、演奏が終わると再び葉擦れの音が、森の風も協力してくれたのでしょうか。

昼食後、登り龍のようなダケカンバを観察して、帰路に着きました。



ベニサラサドウダンツツジ



オカリナの調べがブナ林に



登り龍のようなダケカンバ

第188回観察会 母成峠 新緑のブナ林にて

野中文字子

森には命が満ちていた。降り注ぐエゾハルゼミの大合唱、葉陰に見え隠れする小さな昆虫たち。守さんと昆虫博士、増田さんのペアは最強で、次々に名前を明らかにしてくれる。アオハムシダマシ、ケブカアシヒゲボソウムシ、セスジジョウカイ、カバノキハムシ、貴重なコリクワガタも？ほんとに楽しい！（そもそも、木も花も蝶も虫も、きっと誰かが答えてくれる、こんな贅沢なグループがほかにあるでしょうか）中でも私はゴマダラオトシブミが気に入りました(写真)ベージュの体に小さなゴマ粒がシックで個性的、去年、孵化させたその夜に逃がしてしまったヒゲナガオトシブミのつぶらな瞳を思い出した。

ミズナラの幼木には、いろいろな種類の揺籃が仲良くぶらさがっている。ちょっと造りが雑なのもあったけど、オカアサン昆虫たちの涙ぐましい努力に、種を越えた母親目線で感動してしまう。地面の直径一センチほどの穴を目ざとい方が「これなんでしょうね？」と見つけると、「あ〜、これはエゾハルゼミが出てきた穴ですね」と増田さん、一同びっくり！「どうしてそんなことまでわかるのですか！？」(半分怒ってる私 笑)

「え、、この時期、このサイズだから」・あっさり返されて気が抜けた。

知らないことを知るといのはなんと楽しいことか。興味を関心を分かち合える方々と学べるということはなんと嬉しいことか。

だいぶ歩いて、目的地のブナの森へ。お楽しみのランチタイムは、渡辺さんのオカリナの演奏♪

エメラルドグリーンの中緑のブナの森を背景に立つ渡辺さん、銀色の譜面台が木漏れ日にキラキラと反射している、透きとおった優しい音色がブナの森に流れていく。まるで絵本の世界のような。平和でおだやかで、ぜいたくな時間を、ほんとうにありがとうございました。

帰路の観察はダケカンバの古木。観察ポイント③ 龍のような姿を見上げ、荒々しい木肌に触れ、この樹形にいたった経歴を想像する・浮遊根とかまた新しい言葉もインプット・・・のはずが、もう私の集中力は切れ、心はネマガリダケに向いてしまっていた。初めて自分で採ったネマガリダケ、おいしい。それで作ったお味噌汁、最高でした。注意力散漫の不良会員でしたが、また次回もよろしくお願ひします。



アオハムシダマシの飛翔



ゴマダラオトシブミ



エゾハルゼミの脱出口



エゾハルゼミ



アカスジオオカスミカメ



コリクワガタ



サナエトンボ



トホシハムシ



オトシブミの観察



新緑のブナ林を通る光と風が心地よい



ホオノキで風車づくり

第 187 回奥土湯自然林・早春の植物観察会

池田恵子

去る4月23日、奥土湯自然林の観察会に、久しぶりに参加しました。天気が良く、最高の散策日和。しかし、天気割には、ヒンヤリとした空気の中出発した。歩き始めると、様々な種類のスマレが、目に入って来た。タチツボスマレ、アカフタチツボスマレ、ナガハシスマレ、オオタチツ



第 187 回奥土湯自然林・早春の植物観察会

ボスマレ、(私には、区別が難しい...)エイザンスミレ、最後の方には、花が大きく白っぽい、オトメスマレ(珍しい)、花が小さめのニョイスミレがあった。帰りの車の中からも、道の上土手に沢山スマレが咲いていて、薄紫の花が、大きかったのが、印象的でした。

今年は、桜の花が、10日~2週間も早く咲き、平地では緑が濃くなっていましたが、ここは、早春の芽吹きが見られました。イタヤカエデやカジカエデ、カスミザクラと芽吹いたばかりの緑が、青い空と白い雲をバックに、キャンパスのようにカメラに、収まった。正に、「山笑う」、今でなければ、見る事ができない風景です。

植林地分岐を過ぎると、自然林へ。カタクリが一面にあり、踏まないようにと気を付けても、どうしても踏んでしまう。足の踏み場がないとは、こういう事か? 咲いている花はほとんどなかったが、一年生、二年生と思われる小さな葉も、本当に沢山あった。そして、そこには、背の高いブナやあがりこのケヤキがあり、あがりこの幹から音符の様な新芽が出ていて、写真撮りに夢中になった。

里山が、だんだん少なくなっていると言われていたが、開発されずに残っているのは、有難い事だと思います。

里山とは、「人里に近い集落周辺の低山」「食料や木材、自然資源の供給、良好な景観形成」「水源確保や国土保全、身近な自然とのふれあいの場、文化の伝承の観点からも重要な役割を果たしている。また様々な動植物の生息・生育場所となり、日本の自然を豊かにする役割も担ってきた」(Google 調べ)

里山は、高山の会の「自然を守る」精神の本質であると改めて感じました。

観察会は、いつも新しい発見があり、心身を元気にさせてもらえます。

参加された皆様、お世話になりました。



ケヤキのアガリコの観察



ケヤキの萌芽



山笑う



芽吹きが青空に映える



ミヤマエンレンソウ



イタヤカエデ



オトメスマレ



ヒメアオキ(雌花)

小鳥の森観察（春）ホクリクムヨウラン 松井さき子



ホクリクムヨウラン花蕾



ホクリクムヨウランの開花

きたいと思う。

冬の観察時にムヨウランの蒴果を見つけて、花の咲く時期に花を見たいと強く祈っていた。5月3週目に観察することになり、今回蒴果の出ている所を探しながら観察することにした。オニアザミ、ハナニガナなどが咲いている坂を登り、ネジキの実、アオハダの小さい白い花等観察し、少し下るとコナラ林になり、陽射しが当たらない所でふと道の両側に15 cm 位の黒っぽい植物？が眼に入った。

皆でこれだムヨウラン！！と叫び写真を撮った。黒い枝っぽい先はちょっと膨らんでいて薄ピンク、薄黄色の花芽のような蕾かな？と思った。その後一週間ぐらいは開かない状態だった。ネットの情報を見ると閉鎖花もあると知った。別の情報で、以前に調査された福島大学の報告書をスマホで見ることができ、小鳥の森のムヨウランはホクリクムヨウランと分かった。花は開かないとのことで、小鳥の森のコナラ林の縁、竹林の縁で確認されたとのことだった。ホクリクムヨウランは森林環境を維持することで保全できる（武田克彦 著、2009年）。

ホクリクムヨウランを見つけてから3日に1回ぐらい観察していて、10日後には、花が開いている株も何本か見つけた。嬉しく、また興味深く思い、ますます楽しくなってきた。私たちはこれからもホクリクムヨウランの花を楽しみながら蒴果になっていく様子を観察し、花仲間4人（松井さき子、渡辺京子、五十嵐礼子、古内真由美）で大切に見守ってい



平開したホクリクムヨウラン



ホクリクムヨウラン花色は淡暗紫

ムヨウランとホクリクムヨウラン（絶滅危惧 II 類）

この2種類のムヨウランの見分けにはいくつかのポイントがあります。まず、花の色が異なり、ムヨウランは淡黄色なのに対して、ホクリクムヨウランは淡赤紫色～暗紫色です。また、ホクリクムヨウランの花はほとんど開かないので観察が困難ですが、唇弁は分裂しません。唇弁の内面には黄色い毛が密生しています。ムヨウランにも唇弁にきれいな黄色い毛がありますが、唇弁は3裂します。さらに、ホクリクムヨウランの子房や花茎には微細な小突起があるのも特徴です。果実にも突起が残っていますので、花のない時期にも見分けができます。

（福島県とその周辺の花巡り <http://hanapapa.world.coocan.jp/Fukushima/hokurikumuyouran.html> より抜粋）

西吾妻登山道保全ボランティア作業-西大巔-樹林帯



作業終え、西大巔山頂にて

2023年6月13日(火)に西大巔から水場を経て樹林帯までの区間で誘導ロープ設置作業を実施しました。作業には、一般公募ボランティア7名と裏磐梯自然保護官事務所4名、グランデコ職員1名、高山の原生林を守る会2名(ロープ設置作業は1名)が参加しました。

参加者は健脚揃いで、私一人後から追いかけて、何とか西大巔山頂にたどり着きました。何故か、今回はいつもより登りで苦労しました。それでも作業に無事合流できたのは幸いでした。

雨の予報が大外れ、青空がのぞく中、西大巔斜面の植生崩壊地帯での近自然工法登山道整備班と誘導ロープ設置班に分かれて作業を進めました。西大巔斜面崩壊地帯では植生回復エリアと通行エリアを区分するため誘導ロープを設置し直しました。作業ボランティアの公募は今回で4年目、繰り返し参加されている方がほとんどで、誘導ロープ設置作業は順調に進み、時間的にも余裕を持って終了しました。

4年目の作業を無事に終えることができて、

頼りがいのあるボランティアのみなさんには感謝しかありません。しかし、近自然工法による本格的な登山道整備には、更に多くの方々の協力が必要です。(佐藤 守 記)



ロープ設置作業



樹林帯方面のロープ設置もばっちり

西吾妻登山道保全ボランティア作業-若女平分岐-西吾妻小屋南西湿原



作業終え、かもしか展望台にて

2023年6月17日(土)に天元台から西吾妻小屋南西湿原までの登山道保全作業を実施しました。総勢24名と24年間で最も多くの参加者でした。内訳は一般公募ボランティア13名と裏磐梯自然保護官事務所4名、プレック研究所職員親子2名、高山の原生林を守る会3名です。また、例年通りNF米沢3名が加わり、年齢が10代から80代と幅広い世代の共同作業となりました。

特にアドバイザーの中里さんは小笠原での

作業現場からの直行で、その仲間、東京から林さん、小笠原諸島父島から山梨さんが駆けつけてくれました。またプレック研究所の深沢さんは中学生のお子さんと親子で参加してくれました。

NF米沢の作業エリア(人形石分岐、天狗岩-西吾妻間湿原)とは別に、若女平分岐湿原と西吾妻小屋南西湿原の2カ所でロープ設置作業と近自然工法整備作業を行いました。ロープ設置作業に続き、昨年実施した近自然工法整備箇所でも現状の確認と考え方の説明を中里氏から説明を受けました。最後に石を若女平分岐まで運んで通行路を設置するなど内容も盛りだくさんでした。

ボランティア参加して頂いた皆さんには感謝しかありません。ありがとうございました。今回は世代を繋ぐ山岳植生を守る活動となりました。これを如何にして継続していくかが課題です。(佐藤 守 記)



近自然工法登山道整備の説明



石を運んで若女平分岐で整備

東北ブナ紀行（85）

奥田 博

今回は県境の山のブナ。秣岳は栗駒山の西端、秋田と宮城の県境の静かな山。もう一山の甑山は、秋田県と山形県境の岩山で、登山口から山頂までブナの森に覆われたどちらも無名な山だ。

135) 秣岳 1424m

栗駒山は秋田・宮城・岩手の3県にまたがった山で、中腹にはブナの森が広がり、森林限界を越えると湿原に花が咲き、山麓には温泉が点在する東北の代表的な山岳の形をなしている。そんな中で、秋田側から登る秣（まぐさ）岳は山頂部以外ブナの森に覆われて、ブナの森を楽しめる山だと思う。

登山口の秋田県側、須川湖近くから歩き始める。すぐにブナ林の登りとなる。ブナの森を味わうには、登りに限る。登りのキツイ方が、ゆっくりとしたペースとなり、その分観察が行き届く。ブナの根元で一足早く紅葉するツタウルシを探し出したり、ブナの木に隠れるように付けたツノハンバミの実を頬張ったりしながら登る。突然トラバースの道になるとお花畑になり、コルに着く。ここから灌木帯を登れば、360°展望台の山頂到着となる。

コースタイム：登山口（1時間30分）山頂（1時間）登山口



136) 甑山 981m

山形県には甑岳（1015m）と甑山があるが、甑山はブナに包まれた岩山だが低山。男甑山、女甑山の二つの岩峰である。秋田県境が登山道で、甑峠は山形と秋田を結ぶ古い矢島街道であった。

登山口までは長い林道を走り、着いた登山口はすでにブナの森の中だった。若いブナを中心に100年程度のブナが広がっている。そのブナ平とも呼べそうな中を歩くのは心地よい。その中には、樹齢千年を越えるような大カツラや、大ブナを占拠したツルアジサイの白い花束、足元には珍しいサイハイランの花などが見られて楽しい。

尾根に出ても山頂までブナに覆われ、途中からは今歩いてきたブナの樹海が広がっていた。

コースタイム：登山口（45分）主尾根（45分）男甑山山頂（1時間10分）登山口



ヤマブキショウマ (*Vaccinium smallii* var. *smallii* バラ科ヤマブキショウマ属)

吾妻・安達太良連峰のミズナラ林から亜高山針葉樹林の沢沿いや湿り気のある草地、岩礫地の斜面に植生する大型多年草。吾妻・安達太良連峰にはショウマと名の付く多年草にトリアシショウマ(ユキボシタ科)、サラシナショウマ(キンポウゲ科)、ルイヨウショウマ(キンポウゲ科)、レンゲショウマ(キンポウゲ科)などがある。ショウマはサラシナショウマの根茎を指し、生薬として利用された。本種とトリアシショウマは他のショウマとは科が異なる。トリアシショウマと同様に若芽が山菜として利用される。この両者は花の姿が似ており、混同される。

葉は互生。二回三出複葉で、小葉は卵円形で、先は尾状に細長くとなり、縁に欠刻と鋸歯がある。側脈が明瞭で、平行した葉脈が、葉縁までとどく。トリアシショウマは三回三出複葉で側脈の先は網状で葉脈は縁まで届かない。

花は頂生。枝の先に大型の複総状花序を形成する。雌雄異株。小花は花茎の基部から先に向かって開花する。小花の色は黄白色、靴ペラ状の花弁を5枚着ける。雄花は雌しべが退化、雄しべは多数あり、花弁より長い。葯は、開花始めは白色であるが開葯するとオレンジ色に変わる。雌花は雄しべを欠き、黄白色の3個の子房から白い柱頭を伸ばしている。トリアシショウマの小花は両性花で花弁は白く、細長い。雌しべの花柱は2本である。開花期もヤマブキショウマより1, 2週間遅い。

ヤマブキショウマとトリアシショウマは葉と花の違いを理解していたつもりでも、山で会うのはどちらかの個体で、識別に迷うことが度々であった。安達太良・烏川遊歩道の自然観察会で隣接している両種の群落に遭遇した。開花の違いなど確認することができ、長年の霞がようやく晴れた思いがした。



ツルシキミ (*Skimmia japonica* var. *intermedia* f. *repens* ミカン科ミヤマシキミ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林に植生する常緑低木。ミヤマシキミの変種で多雪地帯に適応して矮小化した。根元はつるの様に地を這い、斜上する。ヒメモチ、ヒメアオキ、エゾユズリハとともに多雪地帯型ブナ林を表徴する林床常緑樹。福島県では太平洋側に植生するミヤマシキミは幹が確立した中木で樹高も樹姿も明らかに異なる。

葉は互生。枝の先端で輪生状に葉を着ける。短い葉柄を持ち、葉の形は倒卵状長楕円形で、基部はくさび形で、先は短く尖り、先端は浅くへこむ。黄白色の主脈が葉の中央を走る。葉縁は全縁で、裏側に巻く。表面は濃緑色で光沢を持ち、裏面はやや緑白色を帯びる。

花は頂性。雌雄異株。枝先に散房状の円錐花序を着生する。花は4数性。雄花、雌花とも白色の4弁花を咲かせる。雄花は雄しべ4個がある。葯は黄色。花の中央部は緑色の退化した雌しべが残る。雌花は緑色の柱頭の先に大きな乳白色の柱頭をもつ雌しべと退化した小さい雄しべが4個ある。柱頭は4裂する。花には柑橘系の弱い香りがある。開花期を迎えたツルシキミの姿は深い緑色の葉を放射状に並べたコースターの上に白い花手毬が乗ったようで良く目立つ。

ツルシキミの果実は、球形の液果で夏から秋にかけて赤く成熟する。丸い果実が手毬の様に集まった姿はおいしそうだが、残念ながら有毒で食べられない。実は葉も有毒である。ただ、ミヤマシキミの方が猛毒である。

シキミに葉が似ていて、枝が地面を這い蔓のように見えることが名前の由来とされている。シキミはマツブサ科の常緑樹で果実と種子には食すると死に至る猛毒が含まれる。いずれにしても「シキミ」と名が付く植物は鑑賞にとどめておくのがよさそうである。



第189回自然観察会案内：兎平・鳥子平・景場平の高原植物観察会

日時：2023年8月6日（日）8：00～16：30

集合場所 四季の里正面入り口（あづま橋側）

集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 兎平から鳥子平湿原を経由し景場平湿原までのオオシラビソ林と点在する湿原を散策し、高原の樹木と花々を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：8月4日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

第190回自然観察会案内：雄子沢ブナ林・紅葉のブナ林観察会

日時：2023年10月29日（日）8：00～16：00

集合場所 四季の里正面入り口（あづま橋側）

集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 雄子沢を経由して雄国沼に至るブナ林を散策し、秋の花々と高原の広葉樹類の紅葉を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：10月26日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

西吾妻登山道誘導ロープ取り外しボランティア(一般公募とNF 米沢との共同で実施します)

1. 実施日：10月14日(土)6:30～17:00(雨天時10月15日に順延)
2. 定員 10名 取り下げ作業は時間がかからないので一般公募も含め、先着 10名 までとします。
3. 内容 グランデコススキー場ゴンドラ終点から西大巔に登り、西大巔山頂から西吾妻小屋までのロープ取り外し作業を行います。ゴンドラ代は全額会からの支援とします。
4. 集合場所・時間：四季の里正面入り口駐車場 6:30 現地(グランデコススキー場駐車場)7:30
5. 申し込み：10月12日(木)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメール(全員返信モード)にてお願いします。(電話申込は午後7時～9時でお願いします)

9月中下旬に環境省登山道保全モデル事業として西大巔～西吾妻小屋区間の近自然工法登山道整備が実施されます。保全作業ではボランティア公募を予定しています。詳細は佐藤までお問い合わせください。

ボランティア作業に係るロープウェイ・リフト代を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします(通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします)
郵便振替：02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

編集後記：西吾妻登山道保全作業ボランティアの一般公募を開始して4年目を迎えた。今年是一般公募ボランティアの参加者が過去最高で、作業も実質ボランティア参加者のみで行った。このエリアの保全活動を開始して24年、作業もロープ設置作業に近自然工法による登山道整備が加わり、一自然保護団体の活動域を超えて、より公共性が高まっており、転換期を迎えているのは明らか。これはこの4年間、環境省が中核となって積極的にこのエリアの保全事業を推進してきたことが大きい。登山道整備と植生回復作業は一体のものであり、少なくとも100年にわたる継続性が求められる。そのためには世代を繋ぐ活動が必要である。その体制を如何にして構築していくかが今後の課題であるが、課題解決には行政機関の役割は大きい■6月17日の西吾妻ボランティア作業後に肺炎を患っていたことが分かり、長期入院を余儀なくされた。今後のボランティア活動の中核を担ってくれる人材を求めています[M.S.]

「高山」高山の原生林を守る会会報 第125号 2023年7月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田